

大学基準協会相互評価申請書
点検・評価報告書

2004 年度申請

清泉女子大学

自己点検・評価報告書の刊行にあたって

昭和 25 年、旧軍港横須賀に開学した清泉女子大学は、東京の品川にある景勝の地、島津山に移転して 40 余年を過ぎた今、新たな地の利、人の利を活かして、21 世紀初頭の混沌とした日本および地球社会に新たな活力と幸せをもたらす女性の育成に一層意義ある役割を果たしたいと大学改革に励んでいる。本学がキリスト教ヒューマニズムに基づく建学の精神と小規模女子大学としての伝統を活かして、ふさわしい自己改革を行うために、平成 14 年度から 15 年度の 2 年間、全学を挙げて自己点検・評価を行い、大学基準協会に平成 16 年度の相互評価申請を行う運びとなった。

今日、各私立大学は建学の精神に立ち返り、そこに根を下ろして具体的教育目標を達成し社会の必要性に応えることが求められている。開学の歴史を回顧すれば、本学建学の基盤には 19 世紀後半、スペイン人ラファエラ・マリアとピラール姉妹によって創立されたカトリックの女子修道会である聖心侍女修道会共同体の精神、神と人への愛から生じる謙虚で寛大な奉仕の精神と真理探究の情熱がある。しかしこの精神と情熱が姉妹校である清泉女学院小学校、中高等学校とともに本大学設立として具現したのは、時の利、地の利、人の利の一致した働きによる。契機は横須賀米海軍基地司令官デッカー大佐の理念と修道女らへの学校設立の要請によるが、大佐は非文化的状態にあった当時の横須賀を占領軍と市民の協同作業によってモデル都市にしたいと望み、日本が健全な民主国家となるために宗教と教育から始めなければならないと考え、プロテスタント、カトリック双方の宣教者にミッション・スクールや病院の設立要請をしている。

開学から最初の 16 年間は優れた一流の教授陣を北京輔仁大学系と旧一高・東大系から集め、女子大というよりは少人数のエリート・アカデミーの雰囲気をもった修道院学校であった。学問研究は優秀な教授陣に托し、人格形成と生活指導はもっぱら修道女が受け持った。設立趣意書に書かれた特色ある教育方針には、「教育の客観性一貫性による知識の確実な基礎作り」、「環境による風格の養成」、「陶冶の自立性を認め自発的な切磋琢磨の精神の鼓舞」、「真理の普遍性に立つと共に日本文化の固有価値の再認識を強調」、「人格における男女平等の原則はもっとも忠実に認めた上で女性の文化的活動の長所を育成」、「施設を教職員の研究再教育のために開放する」ことが挙げられている。この教育方針を具現する

ために英文科と国文科の2学科で学生定員を全学320名と限定し、少人数教育を徹底させたため、この時期の卒業生が社会にもたらした評判は好ましく、今も本学の発展に大いなる貢献をしている。

昭和40年代に入って第二バチカン公会議が閉会した後、教会は現代社会への適応を目指して諸改革を行い、本学も修道会中心の管理機構から大学運営の民主化へと移行し、公開講座、教養講座を設け、多くの女性のための開かれた大学へ発展する。昭和48年には学校法人清泉女学院から独立した学校法人清泉女子大学が発足する。カトリック大学本来の特徴と使命をスペイン語スペイン文学科とキリスト教文化学科の設立によって推進する。平成5年度にはキリスト教文化学科を文化史学科へと改組転換し、平成13年度には新たに地球市民学科を開設し、急速に変化する社会の要請にこたえる新しい女子教育のあり方を探っている。

平成15年3月の中教審の答申には、「日本社会は自信喪失感や閉塞感の広がり、倫理観や社会的使命の喪失諸多」を挙げ、教育を根本的に再構築するために、5つの目標実現に取り組むと述べ、同年5月、文部科学省は『教育の構造改革～画一と受身から自立と創造へ～』の中で、「個性と能力の尊重」、「社会性と国際性の涵養」、「選択と多様性の重視」、「公開と評価の推進」を強調している。日本私立大学連盟は平成16年3月、『日本の高等教育の再構築へ向けて[III]:16の提言』の中で「私学は受身の姿勢から脱却して、その存在意義をかけて、日本の教育の現状に正面から向き合い、これを独自の方向性をもって改革し、日本社会をリードする立場に立つべきであろう」と述べている。

本学の自己点検・評価報告書を通読し、また建学の精神と開学の歴史を振り返るとき、本学はまことに小規模であるが、現代の日本社会が希求している真の教育に貢献する宝を持っているとの確信を強めることができた。初期の建学の精神である教育へのミッションとパッションは変わらないことが重要。改革が必要なのはファッションであろう。それは時代の声を聞きつつ、時代や社会との対話および同じ教育・研究・社会貢献に専念する同僚からの相互評価からの学び、さらに第三者評価による試練と鍛錬によって磨かれることを期待する。

平成17年3月

清泉女子大学長 塩谷 惇子